

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

宮原中学校区 校番 12 学校名 呉市立宮原小学校

a 学校教育目標	学び考え行動する 人を育てる 〈小中一貫教育目標〉 資質・能力に支えられた 「生きる力」の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 (学校の使命) 学力の向上 社会性・規範意識の涵養 〈ビジョン〉 (将来の学校像) 宮原小学校で学んでよかった、宮原小学校で学ばせてよかったと思える学校
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点 本中学校区では、昨年・一昨年度、「資質・能力に支えられた『生きる力』の育成」を小中一貫教育目標に児童の学力の向上と社会性・規範意識の涵養に取り組んだ。本校でも、学力の向上のために「子どもの問いを生かした『考える授業』づくり」により教師の授業改善を図った。授業改善の視点を共通理解し日々の授業や校内研修等で実践・研究しており、教師の指導力は向上した。今年度も主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、教師の授業改善の意識をより高め「子どもの問いを生かした『考える授業』づくり」による授業改善をさらに推進していく。児童の社会性・規範意識の涵養に向けて「学びのルール」と「生活のスタイル」の指導、実践により児童の自己指導力の育成を図った。組織的・集中的な取組により、授業でのあいさつ、くつそろえ、そうじは児童に身に付いてきた。今年度は学びのルールや生活のスタイルを守るよさを児童に実感、納得させ、「学びのルール」「生活スタイル」を確実に定着させて、児童の自己指導力をさらに高めていきたい。			

育成すべき資質・能力	知識及び技能 論理的思考力・判断力・表現力 主体性・協働性 自己指導力(自律・貢献) 郷土愛
------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	① 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	① ○日々の授業を「子どもの問いを生かした『考える授業』」に改善する	① ○子どもの問いを生かした「考える授業」づくり ・児童の問いを基にした学習課題の設定 ・問いの解決に向けた思考を促す発問(考えるための技法を活用させる発問) ・考え(個)を広げ深め(集団)再構築(個)、振り返りの授業展開 ・日常の教諭間での授業参観 ・ICTの効果的な活用 ② ○基礎学力の定着と思考力の向上 ・授業で基礎学力、思考力向上 ・反復による基礎基本の徹底(読み・書き・計算・キュービナ)	① ○授業改善に係る教師の自己評価4段階評価で3以上の教師の割合 ② ○授業改善に係る教師の自己評価「個を大切にしたい支援の充実」に関する項目「授業では取り残されたまま放置されている子どもはいない」教師の自己評価4段階で3以上の教師の割合 ③ ○児童アンケート「主体的な学び」に関する項目「授業では、自分の考えを、わけをつけて表現しています。」中学校区児童アンケートの肯定的評価 ④ ○全国学力・学習状況調査及び標準学力テストの正答率(国語科、算数科) 全国学テ:正答率全国平均以上 標準学テ:正答率70%以上 ⑤ ○単元テストの平均点 国80点以上・算75点以上	60	33	56	D	78	97	B
**	① 児童に自己指導力の育成	① ○児童に学びのルールと生活のスタイルを定着させる ② ○学びのルール(学習規律) ・児童に期待感・充実感をもたせる授業 ・児童が考える、または、児童が納得するルールづくり ・ルールを守るよさの指導と評価 ③ ○生活のスタイル ・スタイルを守るよさの指導と評価 ・委員会活動等高学年の参画 ④ ○防災教育を深化させ西日本豪雨災害を風化させない	① ○積極的な生徒指導・支持的な学級集団づくり ② ○「自分の命は自分で守る」意識と実践力の向上	① ○児童アンケート「自己有用感」に関する項目「自分にはよいところがある。」「自分は周りから認められていると思う。」中学校区児童アンケートの肯定的評価 ② ○学校に行くのは楽しいと思う児童の割合 全国学力・学習状況調査の肯定的評価 ③ ○重点項目の達成率 ・授業開始・終了の時刻 ・授業開始・終了のあいさつ ・手を挙げて指名されてから発言 ・指名されたら返事 ・机上(特にタブレット)の整頓 教師の見取りによる児童の姿 ④ ○重点項目の達成率 ・あいさつ(自分から先に) ・くつそろえ(下足・トイレ) ・そうじ(もくもく・時間いっぱい) 中学校区児童アンケートの肯定的評価 ⑤ ○自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合	85	78	92	C	88	104	A
*	① 児童の基本的な生活習慣の定着と体力の向上	① ○基本的な生活習慣を定着させる ② ○体力を向上させる	① ○生活リズムの定着 ② ○体育科の授業改善 ③ ○業間運動の工夫	① ○健康カードの達成率 ・ここに健康カード(早寝・早起き・しっかり朝食) ・中学校区児童アンケート(家庭学習・メディアコントロール)児童の達成率 ② ○新体力テストの達成率 ・50m(呉市) ・ボール投げ(小中一貫) ・シャトルラン(本校) 全国平均を上回る(男女)	90	70	78	B	89	99	99

【k: 評価】
 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

令和5年度 自己評価 結果の分析及び今後の改善策

(計画・中間・最終)

富原中学校区 校番 12 学校名 呉市立富原小学校

説明 番号 説明 者	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	○日々の授業を「子どもの問いを生かした『考える授業』」に改善する	<p>○特に「教師は教え惜みをし子どもが自分たちで課題を解決している」と「しっかり話し合わせ子どもは話し合いで考えを深めている」の自己評価が低い。</p> <p>○支援の必要な児童には手立てを行っているが、全ての児童に対応できていない。</p> <p>○発言数の偏りがある。理由をどう表現するかが分からない。</p> <p>○国語科では、文章の種類とその特徴について理解すること、算数科では、面積の大小を判断し理由を説明することや筆算を図を基に考えることに課題があった。</p> <p>○計算スキルを活用した。初読の問題に弱い。</p>	<p>○発問を精選し簡潔な問いで子どもに考えさせ話し合わせる。教師はファシリテート役を担う。教師の説明は控え、問い返ししながら子どもに説明させる。</p> <p>○教材研究(教材解釈)の時間の確保に努める。</p> <p>○全ての児童が参加できる場をつくる。言語活動・数学的活動を取り入れる。単元のゴールイメージを持たせる。</p> <p>○グループ・ペアトークを活用する。話形を使う。教師がほめて価値づけをする。</p> <p>○スキルタイムで計算以外にも取り組む。</p> <p>○全学年で2月に検証テストを実施する。授業改善を行う。</p> <p>○新しいスキルタイムに取り組む。授業研後の交流(板書等)を継続する。</p>
**	児童に自己指導力の育成	<p>○児童に学びのルールと生活のスタイルを定着させる</p> <p>○防災教育を深化させ西日本豪雨災害を風化させない</p>	<p>○他者から認められていると肯定的に評価した児童は少なかった。</p> <p>○運動会の開催など、コロナ以前の生活や行事ができるようになってきたこともあり、肯定的な評価が増えたと考えられる。</p> <p>○指導は行っているが、達成できていないものが多い。とくにあいさつや発言など、個人の取組が必要な項目は低くなってきている。授業開始・終了の時刻を守ることについては、工事に伴い難しくなることも考えられる。</p> <p>○概ね達成できた。くつそろえは委員会を中心に意識を高めることができた。</p> <p>○概ね達成している。</p>	<p>○縦割り班掃除で振り返りの時間を取り、他者を肯定的に評価する・される場を作っていく。</p> <p>○今後も学校行事や児童会活動を効果的かつ効率よく実施し、児童の自己肯定感を高める。</p> <p>○工事に伴い児童の動線が変わってくる。時間厳守に対する意識が低くならないように声かけを行う。</p> <p>○委員会活動を通して、重点項目の改善に取り組む。</p> <p>○あいさつは委員会や教職員が積極的に行い、あいさつのできる児童を増やしていく。</p> <p>○掃除道具を点検し、補充や交換などの整備を行い、児童の掃除への意識や意欲を高める。</p> <p>○7月の防災週間での取組で終わりではなく、繰り返し指導して1年を通して意識付けをしていく。</p>
*	児童の基本的な生活習慣の定着と体力の向上	<p>○基本的な生活習慣を定着させる</p> <p>○体力を向上させる</p>	<p>○早寝、メディアの項目に課題がある。</p> <p>○特に50m走、ボール投げに課題がある。</p>	<p>○取組前に学級通信で伝える。</p> <p>○取組前に各クラスで指導を行い、目標を持たせる。</p> <p>○外遊びのやりやすい環境を整える。</p> <p>○サーキット運動に投げる練習を取り入れる。</p> <p>○くれチャレンジマッチに取り組む。</p>

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

学校区 校番 12 学校名 宮原小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標, 指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切だと思う。 ・目標, 指標の設定はとても分かりやすい。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切だと思う。 ・体力を向上させる事については, コロナ禍で屋内での活動が多かったためか達成値が低い。とはいえ, 目標達成までの業間運動には工夫が見られる。 ・子供の問いを生かした「考える授業」づくりで, もう少し具体的に説明が欲しい。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の自己評価が低いと思う。子供たちが意欲的に考えていけるようにされていると思う。 ・先生自身の自己評価を厳しく考えている。 ・今回の結果では, 達成度が低い項目もあったが, 現状の取組を継続していくことで結果が伸びてくるのではと考える。もう少し長い目で結果を追ってもいいのかなと思った。
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく案がたてられ分かりやすい。 ・よく検討実施している。 ・このままで良いと思う。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事にとっても協力的で感謝します。コロナでつながりが薄れていましたが, やっと今までのように学校との連絡がとれはじめたように思います。 ・今年の運動会でフラッグ演技が披露され感激しました。子供たちの自主性(考える力)の発揚が伺え, 今後宮原小の伝統となればと願っています。

※ 評価は, A(とても適切), B(概ね適切), C(あまり適切でない), D(まったく適切でない), N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・目標, 指標の設定, 目標達成のための方策については概ね適切であるという評価であった。 ・説明が不十分な点については, 具体的な説明になるよう, 写真や具体物を提示する。また, 授業参観をしていただく。 ・達成度が低い項目「授業改善に係る教師の自己評価」については, 教師が教材研究(教材解釈)の時間を確保できるよう, 終会や職員会議を精選する。また, 日々の授業で言語活動や算数的活動を仕組んでいく中で, 子供の問いを生かした「考える授業」づくりをめざし, 実践を通して教師の自己評価を高めていきたい。
--------------------	---